

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成30年5月31日(2018.5.31)

【公表番号】特表2017-516210(P2017-516210A)

【公表日】平成29年6月15日(2017.6.15)

【年通号数】公開・登録公報2017-022

【出願番号】特願2016-564078(P2016-564078)

【国際特許分類】

G 0 6 F 9/448 (2018.01)

G 0 6 F 8/41 (2018.01)

【 F I 】

G 0 6 F 9/44 5 3 0 D

G 0 6 F 9/44 3 2 2 E

G 0 6 F 9/44 5 3 0 P

【手続補正書】

【提出日】平成30年4月16日(2018.4.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

1 つ以上の計算装置上で実施されるコンパイラまたはプラットフォームに依存しないオブジェクト指向ランタイム環境によって、クラスファイルにおけるクラス名を識別することを含み、前記クラス名は構造記述を含み、前記構造記述は、前記ジェネレータ関数を識別する情報と前記ジェネレータ関数についての 1 つ以上のパラメータとを含み、さらに、

前記コンパイラまたは前記プラットフォームに依存しないオブジェクト指向ランタイム環境によって前記ジェネレータ関数を実行することを含み、前記実行することは、前記ジェネレータ関数に入力として前記 1 つ以上のパラメータを提供することを含み、さらに、

前記コンパイラまたは前記プラットフォームに依存しないオブジェクト指向ランタイム環境によって、前記クラス名に対応するクラスを生成することを含み、前記生成することは、前記実行することによる結果に少なくとも部分的に基づく、方法。

【請求項 2】

前記識別すること、前記実行すること、および前記生成することは、前記コンパイラによってコンパイル時間に行なわれ、前記クラスファイルは、プラットフォームに依存しないオブジェクト指向言語に基づく、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記識別すること、前記実行すること、および前記生成することは、プラットフォームに依存しないオブジェクト指向ランタイム環境において行なわれる、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記実行することは、ランタイムライブラリから前記ジェネレータ関数をローディングすることを含む、請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 5】

前記 1 つ以上のパラメータのうちの 1 つは別の構造記述を含み、前記別の構造記述は、別のジェネレータ関数を識別する情報と前記別のジェネレータ関数についての 1 つ以上の他のパラメータとを含み、前記実行することはさらに、

前記コンパイラまたは前記プラットフォームに依存しないオブジェクト指向ランタイム環境によって、前記別のジェネレータ関数を実行することを含み、前記別のジェネレータ関数を実行することは、前記１つ以上の他のパラメータを前記別のジェネレータ関数に入力として提供することを含み、さらに、

前記コンパイラまたは前記プラットフォームに依存しないオブジェクト指向ランタイム環境によって、前記別のジェネレータ関数を実行することからの結果を前記ジェネレータ関数に入力として提供することを含む、請求項 １～４のいずれか１項に記載の方法。

【請求項 ６】

前記構造記述は、前記１つ以上のパラメータのうちの少なくとも１つに適用されることになる特殊化動作を指定し、

前記ジェネレータ関数を実行することは、前記コンパイラまたは前記プラットフォームに依存しないオブジェクト指向ランタイム環境によって、前記指定された特殊化動作を前記少なくとも１つのパラメータに適用することをさらに含む、請求項 １～５のいずれか１項に記載の方法。

【請求項 ７】

前記コンパイラまたは前記プラットフォームに依存しないオブジェクト指向ランタイム環境によって、別の構造記述を識別することをさらに含み、前記別の構造記述は、別のジェネレータ関数を識別する情報と前記別のジェネレータ関数についての１つ以上の他のパラメータとを含み、さらに、

前記構造記述と前記別の構造記述との比較、および前記１つ以上のパラメータと前記１つ以上の他のパラメータとの間の比較に少なくとも部分的に基づいて、前記構造記述および前記別の構造記述が２つの等価なクラスを表わすかどうかを、前記コンパイラまたは前記プラットフォームに依存しないオブジェクト指向ランタイム環境によって判定することを含む、請求項 １～６のいずれか１項に記載の方法。

【請求項 ８】

計算装置であって、
プロセッサと、

プログラム命令を含むメモリとを備え、前記プログラム命令は、前記プロセッサ上で実行されると、前記プロセッサに、

構造記述を含むクラス名をクラスファイルにおいて識別させ、前記構造記述は、ジェネレータ関数を識別する情報と前記ジェネレータ関数についての１つ以上のパラメータとを含み、さらに前記プロセッサに、

前記ジェネレータ関数を実行させ、前記ジェネレータ関数を実行するために、前記プログラム命令は、さらに前記プロセッサに、前記１つ以上のパラメータを前記ジェネレータ関数に入力として提供させ、

前記ジェネレータ関数の実行の結果に少なくとも部分的に基づいて、前記クラス名に対応するクラスを生成させる、計算装置。

【請求項 ９】

前記プログラム命令は、プラットフォームに依存しないオブジェクト指向言語のためのコンパイラを実施するようにプロセッサ上で実行可能であり、前記コンパイラは、前記識別すること、前記実行すること、および前記生成することをコンパイル時間において行なうように構成される、請求項 ８に記載の計算装置。

【請求項 １０】

前記プログラム命令は、プラットフォームに依存しないオブジェクト指向ランタイム環境を実施するように前記プロセッサ上で実行可能であり、前記識別すること、前記実行すること、および前記生成することは、前記プラットフォームに依存しないオブジェクト指向ランタイム環境のランタイムにおいて行なわれる、請求項 ８に記載の計算装置。

【請求項 １１】

前記１つ以上のパラメータのうちの１つは別の構造記述を含み、前記別の構造記述は、別のジェネレータ関数を識別する情報と前記別のジェネレータ関数についての１つ以上の

他のパラメータとを含み、前記ジェネレータ関数を実行するために、前記プログラム命令は、さらに前記プロセッサに、

前記別のジェネレータ関数を実行させ、前記別のジェネレータ関数を実行するために、前記プログラム命令は、さらに前記プロセッサに、前記１つ以上の他のパラメータを前記別のジェネレータ関数に入力として提供させ、

前記別のジェネレータ関数を実行することからの結果を前記ジェネレータ関数に入力として提供させる、請求項 ８～１０ のいずれか１項に記載の計算装置。

【請求項 １２】

前記構造記述は、前記１つ以上のパラメータのうちの少なくとも１つに適用されることになる特殊化動作を指定し、

前記ジェネレータ関数を実行するために、前記プログラム命令は、さらに前記プロセッサに、前記指定された特殊化動作を前記少なくとも１つのパラメータに適用させる、請求項 ８～１１ のいずれか１項に記載の計算装置。

【請求項 １３】

前記プログラム命令は、さらに前記プロセッサに、

別の構造記述を識別させ、前記別の構造記述は、別のジェネレータ関数を識別する情報と前記別のジェネレータ関数についての１つ以上の他のパラメータとを含み、さらに、

前記構造記述と前記別の構造記述との比較、および前記１つ以上のパラメータと前記１つ以上の他のパラメータとの間の比較に少なくとも部分的に基づいて、前記構造記述および前記別の構造記述が２つの等価なクラスを表わすかどうかを判定させる、請求項 ８～１２ のいずれか１項に記載の計算装置。

【請求項 １４】

請求項 １～７ のいずれか１項に記載の方法をコンピュータに実行させる、プログラム。